

平成 30 年 7 月 2 日 (月)	資料 4
平成 30 年度第 1 回自立支援協議会	

部会名	平成 30 年度第 1 回高次脳機能障がい部会
日 時	平成 30 年 6 月 19 日 (火) 18:20~20:40
場 所	グリーンホール 2 階ホール
参加者	97 名 (医療関係者 44 名、福祉等支援者 34 名 当事者・家族 19 名)
<p>区西北部高次脳機能障害支援普及事業 (豊島病院) と共催</p> <p>(1) 講演「高次脳機能障がい者の社会参加 ～当事者となった高次脳機能障害リハビリ専門家 S T の物語～」</p> <p>講師：関 啓子氏 三鷹高次脳機能障害研究所 所長 神戸大学大学院保健学研究所客員教授 言語聴覚士 高次脳機能障がい当事者</p> <p>(講演内容)</p> <p>1 私の脳梗塞概略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害者とは ・私のリハビリテーションと私の対応 <p>2 高次脳機能障害者の社会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害者の多様性 ・本人の状況と支援者：支援者は本人の困難を「我がこと」に！ ・バリアバリュー ・ケアコミ学会の取り組み <p>*終わりに</p> <p>(アンケート自由記載例)</p> <p>○リハビリする側・受ける側、双方の考えをより具体的にご教示いただき参考になりました。</p> <p>○当事者であり、専門家である先生のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。当事者の声が聞けたことは、今後の臨床でも参考にできることばかりでした。</p> <p>○講演の中で、「当事者の希望と提供されるリハビリ内容に相違があり残念」という話があり、ビクッとしてしまいました。自分の行っているリハビリ内容をもう一度見直してみようと思いました。</p> <p>○以前から、関先生のお話を聞いてみたいと思っていたので、大変いい機会になりました。「100 点はいらない」との言葉がとても印象的でした。セラピストも往々にして 100 点を目指しがちなので、自分の関わり方を振り返ってみようと思いました。</p> <p>全体として「支援をする側・受ける側の双方の考えを聞けたのが参考になった。」「自分の行っているケアをもう一度見直してみたい。」との記載が多くみられた。</p> <p>(2) 次回予定</p> <p>日時：平成 30 年 10 月 16 日 18:20～</p> <p>場所：グリーンホール 2 階ホール</p> <p>内容：事例検討会</p>	